



大自然の中でお泊り保育



平成 26 年 7 月の園だより



暑い夏も親子で楽しく!



山県郡北広島町のログハウス“山の家”で白組さんが、小学生や学生ボランティアのお兄さんお姉さんと一緒にお泊り保育を楽しみます。農園に行って、とうもろこしを収穫したり、グループでポイントラリーや、夕食のカレーライス作りなど、貴重な楽しい経験を沢山します。また夜にはキャンプファイヤーをした後、虫の声や葉っぱの揺れる音を聞きながら露天風呂に入ったり、スイカを食べたり、花火をして遊びます。

保護者の皆さんから離れ、大自然の中いろいろな世代の人と過ごすことで、協力することの大切さや自律心が育まれる機会となればと思っています。



7月7日は七夕です。人日(正月)、上巳(桃の節句)、端午、七夕、重陽(菊の節句)は、昔から五節句といわれ、それぞれにちなんだ伝説や行事があります。

七夕は星まつりで、天の川をはさんで東西に位置するアルタイ星とベガ星をけん牛(ひこ星)、織姫(織姫星)と呼んでいます。この二人は仲が良すぎて仕事をしなくなったため、天の神の怒りに触れ、別れ別れになってしまったのです。しかし、それから二人は懸命に働き、一年に一度7月7日カササギの橋の上で会うことが許されたと伝えられています。

しかし、現実には、二つの星は、17億光年も離れていて永久に星が出会うことはありませんが、二人が出会うことができるようにとの願いから中国の人が考え出した美しい伝説です。日本では、平安時代に宮中で行われ、年中行事のひとつになり、江戸時代になると民間でも広く行われるようになりました。

心の栄養

梅雨の代名詞ともいわれる「しとしと」は今年は今のところ縁遠いようです。これに代わり、関東地方のゲリラ雷雨や“ひょう”が降り積もるなど、異常な現象が見られます。

先日、東京都三鷹市では、集中的に“ひょう”が20センチも積もり、収穫直前のとうもろこしも壊滅状態という大打撃を受けました。“ひょう”の一粒が2センチ以上もあり、樹木の葉に穴があいたり、車が傷ついたり勢いの強さが伺えます。また、豪雨に伴った雷も激しく、中には地上から空に向かう稲光もみられたとか…。積乱雲が原因ということです。

当地方も、梅雨入りはしたものの降ったり止んだり…。止んだりの合間に無事運動会を催すことができ何よりでした。沢山のご協力ありがとうございました。

折しも、ワールドカップで日本中、いや、世界中がヒートアップしています。Cグループ、日本は、1戦(対コートジボアール)2戦(対ギリシャ)は実力が出しきれずということで、3戦のコロンビア戦にかけたみんなの期待もむなしく、4対1の大差で敗退しました。サッカーブームの昨今、子どもたちも少なからずテレビの画面に興味を示したと思われます。

室内で過ごすことの多いこの時期、大切に充実させたいのが、ごっこあそびの中で、言葉のやりとりを楽しむことや、本を読んだり、読んでもらったり、また、お話を聴く時間です。

本やことばの勉強をされているお茶の水女子大学名誉教授、外山滋比古先生によると、目で見るとは勿論、耳でことばを聴きわけることにより、想像力が広がり、しっかり聴こうとすることで頭がよくなるということです。

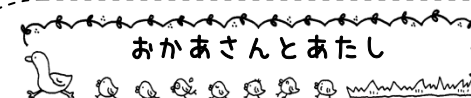
また、話を語って聴かせる素語りも3歳くらいからおとぎ話を中心にしても、いろいろな動物が登場して来る「ももたろうさん」など実物は見たことがなくても、ストーリーの中身と共に、想像力を膨らませて聴くことで、言葉の数もたくさん獲得し、豊かな成長に効果があるようです。

そして、内容そのものより、読んでもらったり、話してもらった人の声(音色、音質、スピード、間合い)や肌のぬくもりから愛情を直接感じることで、言葉の数もたくさん獲得し、豊かな成長に効果があるようです。

今の年齢ならではの豊かな心の育ちを大切にしていきたいと思います。

副園長 松尾 菊子

梅雨があげると、暑い夏がやってきます。今年も、広島県は節電対策の一環として「ひろしまクールシェア」を行い、平日はこの企画の参加事業所、企業がお得なサービスをするようです。お休みの日であっても、各区図書館や、子ども文化科学館、交通科学館、美術館など、公共の施設や、森林公園など涼しいところへお出かけされると節電にもなり、また親子の触れ合いのひとつにも役立つことでしょう。



「じっとしてて」「ちゃんと食べてからね」「ちょっと静かに」「またこんどね」

ふとした時に 頭の奥の方で再生される、おかあさんの声。毎日「あたしのこと」で大忙しだったおかあさんを思い出す。

バス停まで一緒に走ったり、いっしょにテレビ見て笑ったり、いつまでも寝なくて怒られたり。濡れたタオルでゴシゴシふかれた顔や、パンツをグイッとほかされた時のもちあがる感じ、そんな感触もよみがえる。口の中をみせて、と片手でつかまれたほっぺた、耳そうじのとき、おかあさんのおなかでつぶれてる鼻、ドライヤーをかけるおかあさんの後ろにもれてくる温風…。

そんな写真にも映像にも残っていない、でも、おぼえてる、そしてずっとおぼえていたい、おかあさんとあたしの、たくさんの一瞬。

大和書房「おかあさんとあたし。」より

地震・水害に備えよう

広島市南消防署
警防課 救助係

